

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

「就業力を育てる3ステップシステム」

プロジェクト

<http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

目指せ、タフ！！

特任教員 白井 章詞（しらい しょうじ）



略歴

法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)
修了後、法政大学大学院政策創
造研究科博士後期課程に進学。

2011年3月、同博士課程中退。

e-mail:

shohji.shirai.36@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F

「就業応用力養成Ⅰ」では、メディアと連携し、大学生の声を世の中に発信していくことを目指しています。グループごとにテーマを絞り、アンケートやヒアリング調査を行ない、データを分析し、記事を作成していきます。そのため、私のパソコンには毎週大量の原稿が届きます。それらを一つ一つ読んでいくのですが、正直、辛くなるのがよくあります。文章の拙さ以前に、彼らの記事が読み手の心境をまったく意識していないことから、読者として読み続けられないのです。

大学の講義では、学生に文章を書かせることがよくあります。例えば、小論文や要約、あるいは受講感想などが一般的です。教員は、学生が書いた文章に目を通します。教育者ですから、不可解な文章であっても、必死に読み解こうと試みます。ところが、社会に出ると、ツマラナイもの、読みにくいもの、自分勝手なものは、そもそも読んでもらえません。仕事の世界であれば、企画書として自分の考えを論理的に記述し、上司や仲間に理解してもらう必要があります。あるいは、仲間と協力して仕事を進めていくにも、現状分析や今後の戦略、作業手順など、書面で情報を共有していくことが不可欠になります。

そこで、この授業では、他人に読んでもらえるような文章力を身につけるために、学生の提出物（原稿）を受講生全員の前で音読し、読み手の感想を伝えながら添削していきます。受講生からは「公開処刑だ」との悲鳴も聞こえてきますが、効果は抜群です。原稿を提出する前に、何度も自分で見直しをする習慣がついてきたようです。また、文章の構成にも工夫が表れてきました。受講生の誰が、なぜ褒められたのかを必死になって吸収しているからでしょう。とうとう、先日の授業（6月8日）では、ビジネス誌の編集デスクからも絶賛されるような記事が出てきました。

彼らが書いた記事は、間もなく世の中に発信されていきます。それに伴い、読者の方々から厳しいコメントも多数寄せられることでしょう。私は、あえて学生が書いたということを伏せて、世の中に発信しようと考えています。それによって、社会の厳しさに触れてもらうとともに、そうした声さえも次のチャンスに芽に変えていけるような人材を育成したいと考えているからです。



【他チームの企画をみんなで吟味中】



【何度、ボツになっても企画を発表】



略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84～89年
京都大学経済研究所助手、90～97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年～03年法政大学経営学部教
授、04年～IM研究科教授。

若者は大人の行動をまねている

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

若年層の労働観がおかしいと言われるようになって、相当時間が経ちました。自分で考えて積極的に動こうとしないとか、いつも受け身で指示を待っているとか、若年層について様々な否定的な意見が出ています。私も「確かにそうだな」と思ってきました。

しかし、先日ある会議に出て、電力会社の労働組合委員長の発言を聞いて目が覚めた思いがしました。「若者だけがおかしいのではない。世の中全体が他人に責任をなすりつけようとしているのではないか」と、その方はおっしゃいました。批判はするけれど自ら動いて問題を解決しようとする大人たちが増えています。若者は、そのような大人たちの行動をまねているだけなのです。

子どもは大人を映す鏡だと言われます。子どもたちの行動がおかしくなっているとすれば、それは大人たちがおかしくなっているからです。若者から「カッコイイ！」とあこがられるような大人が増えていくことが若年層の問題を解決する近道ではないかと思えます。

心を込めた「動機付け」を

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

「すぐに他人(ひと)任せにする」「自分から動かない」などなど…、現代学生の弱点と言われている。授業でのグループワークにおいて、これらの弱点を顕著に感じるが、これが現実だ。私は彼らに「企業は採用活動のグループディスカッションをなぜ行うか?」「何を求めているか?」そして、今のグループワークの取組みがどう「役に立つか」を説明する。

するとどうだろう、学生達は前向きにグループ作りを始め、一生懸命に自分を伝えようとする。私はその場で何を感じたかを大切に、必要なことを言葉で伝えているだけだ。

「心を込めて動機付けする」それを受け取ると、彼らは自ら考え、行動を起こす。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70-06年伊藤忠商事(株)勤務、06-11
年帝京大学と法政大学職員。
11年-法政大学教員

好評！ビデオ教材出前講義

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

ビデオ教材を用いた授業を始めました。学生の反応は想定内外のものがありますが、講義では伝えられない画像の効果は非常に大きく、「アルバイトと仕事(正社員)の違いがわかった」「失敗を恐れずに取り組もうと思った」等々、この授業の今後の大きな可能性を感じています。

今月から『出前講義』も始めました。各学部の先生方に「もし休講せざるをえない時は、そのコマを我々にお任せ下さい。」とお伝えし、既にいくつかの授業に伺いました。私が担当する際には、必ずビデオ教材とその授業との関連について、グループ・ディスカッションを行い、本科授業とキャリア教育の連携・立体型理解を狙っています。ご注文お待ちしております！



略歴:日米ハイテク企業での営業・人事
を経て人事コンサルタントとして独立。
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの
大学でキャリア論の講師を務める。

◆ ワークショップ「ビデオ教材を用いた就業力育成を考える」を開催します。

当プロジェクトで制作いたしました、働く場面を実感させるオリジナルビデオ教材Ⅰ・Ⅱをどのように就業力の育成に活かすかについて、参加者のみなさまと共に考えたいと思います。なお、ご参加いただいた方にはビデオ教材Ⅰ・Ⅱを差し上げます。

みなさまのご参加をお待ちしております！

日時: 2012年8月8日 14:00～17:00

会場: 法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー26F A会議室

出演: 藤村 博之、鈴木 美伸、有田 五郎 ★ 詳細は当プロジェクトのHP(<http://3step.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。

◆ 編集後記:

先日大学職員の採用面接をしてきました。最近の学生は意識が高く、面接の席でもどうすれば大学がよくなるか積極的に意見を述べてくれます。その中にはFacebookやTwitterを使った提案もありました。大学の仕事でもそういうものを使いこなす時代が目の前に来てることを感じさせられました。「課長、報告書はFaceにあげといたのでフォローしておいてください。」なんてことに・・・

◀事務局: 平山 ▶

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム